



# 鳥羽で最期まで暮らそう

## 在宅医療を支える

### 職種の役割を知ろう!!

市在宅医療・介護連携部会 ☎️ 1182

あなたはどこで最期を迎えたいですか？

国民の死亡場所の構成割合の推移を見ると、昭和26年の時点では「自宅」が82.5%と、ほとんどのかたが家で亡

くなっていました。しかし、平成21年には「病院」で亡くなるかたが78.4%と大部分を占め、「自宅」は12.4%とまで低下しました。(図1) 市の平成26年の死亡場所をみても、「病院・診療所」が

74.8%、「自宅」は13.6%と国の割合とほぼ同じ状況となっています。(図2) この状況に反し、平成26年度策定した高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画のアンケート調査で、「最期を迎える際の希望する場所」についての問いに半数以上が自宅と回答しており、希望と実際の状況に大きな差がみられることが分かりました。(図3)

サービスを利用しながら暮らせるように、平成25年度から各医療機関の代表者や介護事業所の代表者が集まり、在宅医療や医療機関と介護事業所の顔の見える関係づくりや連携の強化に取り組んでいます。しかし、在宅医療での医療関係者の役割やさまざまな介護サービスの役割が、まだまだ市民のかたがたに知られておらず、うまく活用されていないのが現状ではないでしょうか。

医療・介護関係者でペンリレーします!!

今年度は、市民のかたにもつと医療機関や介護事業所の役割や取り組みについて知っていただきたいと考え、直接看取りに携わる各専門家がペンをとり、看取りについてのさまざまな情報をお伝えします。



図1 死亡場所の推多

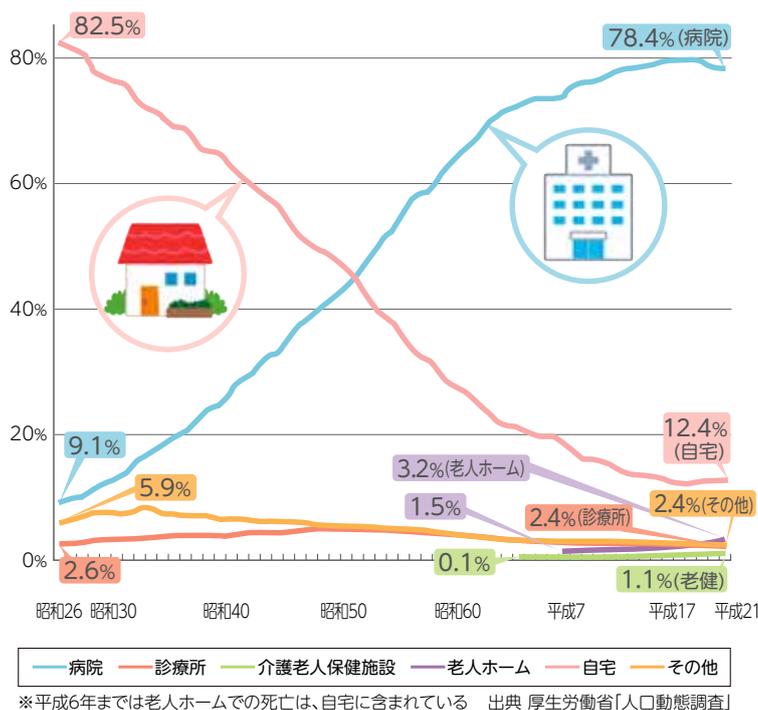


図2 死亡場所 (平成26年)

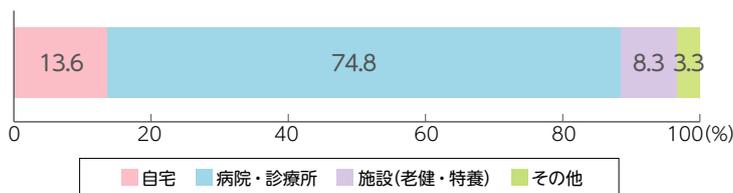
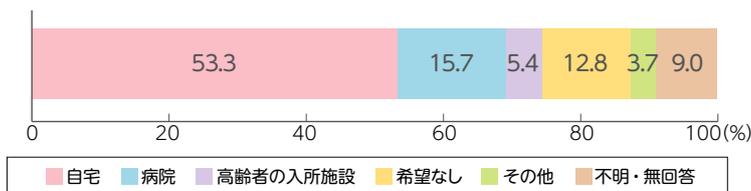


図3 最期を迎える際の希望する場所 (単数回答)



## 在宅医療での療養生活をサポートします

通院や入院ではなく、自宅などの住み慣れた場所で、診療や治療、処置などを行うのが「在宅医療」です。

この在宅医療の中心となるのは、かかりつけ医であり、療養生活の不安をなくすために病院と連携し、在宅医療をバックアップします。

さらに医療サポートを確実にするため、訪問看護師・歯科医師・薬剤師・理学療法士などの他の分野の医療関係者、介護関係者と協力・連携することでチームとして療養生活をサポートします。